

# 2024年度(総合型選抜)AO選抜入学試験 スポーツ健康科学部「CREA方式 数学的素養型」

## 1. 実施状況

### (1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
スポーツ健康科学科	22	10	6

### (2) 本入学試験の目的

スポーツ健康科学部は、スポーツ健康科学の教育・研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するとともに、志高く未来を拓く人材を育成することを目的としている。

「CREA方式（グローバル・アスレティックトレーニング型、教員熱望型、課題発見・解決型、数学的素養型）」としてAO選抜入学試験を定め、この目的を実現するための選考を行った。

CREA方式数学的素養型入学試験の目的は下記を確認することである。

- ①スポーツ健康科学部の人材育成のビジョンである「CREA」やアドミッション・ポリシーを理解した上で、強い学習意欲を有し、主体的に挑戦する意志を持っているか。
- ②数学的な基礎的素養を活用し、スポーツ健康科学部における学びを高度に発展させようという強い意志と将来の展望を持っているか。

## 2. 試験内容

### (1) 第1次選考

出願資格として atama+ を用いた UNITE Program（単元指定型AI学習プログラム）による学習と指定単元の修了を課した。指定したのはデータの分析（データの相関）、場合の数と確率（確率）、整式の微分法（微分法の応用）、整式の積分法（積分と面積）、空間ベクトル（ベクトルと図形）の単元である。

第1次選考では出願書類に基づいて総合的な評価を行った。

### (2) 第2次選考

第1次選考の合格者を対象に第2次選考を行った。第2次選考は①プレゼンテーション資料の作成、②プレゼンテーション、③個人面接、の流れで実施した。

①②に関し、問題は第2次選考当日に試験会場で出題した。数学的素養をスポーツ健康科学部での学習や正課・正課外活動（インターンシップ・ボランティア活動、地域・国際貢献活動、起業・新規事業開発、等）にどのように活用できるかを問う設問を出題した。受験生はA4サイズ用の紙1枚以上3枚以下で資料を用意し、これを用いて5分のプレゼンテーションを実施した。

## 3. 出題の意図

### (1) 第1次選考

事前学習として指定したのはデータの分析（データの相関）、場合の数と確率（確率）、整式の微分法（微分法の応用）、整式の積分法（積分と面積）、空間ベクトル（ベクトルと図形）の単元である。スポーツ健康科学に於いて、数学の中でも確率・統計、微積分、線形代数に関する素養がとりわけ重要と考えこれらの単元を指定した。

立命館大学スポーツ健康科学部を志望する理由と、入学後にスポーツ健康科学部で学びたい分野やテーマについてはエントリーシートの記載内容に基づいて判断した。

高校生活の中で行った数学的素養を活用した取り組みについて、独自性のある取り組みを行って

きたか、それが学びや成長につながってきたか、またそれを論理的に文章表現出来ているか、課題論文に基づいて評価した。

## (2) 第2次選考

### ①②プレゼンテーション資料の作成及びプレゼンテーション

数学的な基礎的素養を活用し、スポーツ健康科学部における学びを高度に発展させようという意志と展望を持っているかを判断するための課題を課し、それに対して作成された成果物（プレゼンテーション資料）及びプレゼンテーションの内容を評価した。

### ③個人面接

立命館大学スポーツ健康科学部を志望する理由、これまでの活動や経験、入学後にスポーツ健康科学部で学びたい分野やテーマについて、ならびに将来の展望について、を評価するために個人面接を実施した。

## 4. 評価のポイント

### (1) 第1次選考

第1次選考では出願書類に基づいて総合的な評価を行った。

エントリーシートでは立命館大学スポーツ健康科学部を志望する理由と、入学後にスポーツ健康科学部で学びたい分野やテーマについて、明瞭且つ具体的な記載がされているか否かを特に重視した。

課題論文では独自性のある取り組みを行ってきたか、それが学びや成長につながってきたか、またそれを論理的な論文として表現出来ているか、を特に重視した。

### (2) 第2次選考

プレゼンテーションについては作成した資料の適切さ、伝え方の適切さ、受け答えの適切さを重視して評価した。面接については志望動機・学習意欲、これまでの活動に数学的素養を活用してきた経験、入学後・将来の展望などについて明瞭に伝えられているか否かを評価した。

## 5. 解答状況

### (1) 第1次選考

エントリーシートについて、スポーツ健康科学部のアドミッション・ポリシー及び本AO入試の目的を理解し、「立命館大学スポーツ健康科学部を志望する理由と、入学後にスポーツ健康科学部で学びたい分野やテーマについて」明瞭かつ具体的に記載されているか、あるいは一般的・表面的な記載に留まっているかに志願者間の差がみられた。また、日本語表現の的確さ、正確さ（誤字・脱字を含む）、記載事項の配分のバランスについても志願者間の差がみられた。

課題論文について、独自性のある取り組みを明確に述べ、論文として構成できているかについて志願者間の差がみられた。また、その取り組みがどの様な学びや成長につながってきたか、今後の取り組みにどの様に活かせるかについても志願者間の差が見られた。

### (2) 第2次選考

数学的素養そのものについて志願者間の差が見られた。出題した問題に対して優良な解答をした志願者もいた一方で、漠然とした解答・誤った解答に留まった志願者も見受けられた。

数学的素養をスポーツ健康科学部の学びに活かすという観点からも、これについて熟慮した跡がみられる立派な解答をした志願者と、表面的な解答に留まる志願者が判別できた。

## 6. 次年度の受験生へのアドバイス

立命館大学・スポーツ健康科学部が開催するオープンキャンパスや説明会に参加し、志望理由を具体的に明確化する事を強く勧めたい。特に数学的素養をどの様に活かすのかについても良く考え、且つ自らの数学的素養そのものを伸ばす取り組みを継続的に行って頂きたい。

CREA型の入試方式全般に共通して、入学後に取り組もうとする課題の具体性・明確性を問うもの

となっている。数学的素養型に関しては、数学的素養を活かすという姿勢、更には数学的素養そのものも求められる。将来にわたって自らが何を実現したいのか、その一歩として当学部を志望する理由は何なのか、良く考え明確な説明ができるよう十分な準備をして頂きたい。

以上